

学校、幼稚園・保育園・認定こども園の先生に知っていただきたいこと

— 患者・家族、主治医、先生方で話しあったことを書いて関係者で持っておきましょう —

氏名：

1型糖尿病であることの公表

☐ クラスに公表する ☐ 学年全体に公表する ☐ 公表しない

公表する際のタイミングなど

例) 始業式の日、本人がクラスで説明する。

学校・園での治療について

行っている治療 : ☐ インスリン注射 ☐ インスリンポンプ

インスリン補充のタイミングや行う場所、保管場所

例) タイミング: 給食前 行う場所: 教室(保育室) 保管場所: 保健室

血糖測定のタイミングや行う場所、保管場所

例) タイミング: 低血糖や高血糖の症状があるとき、注射を打つ前 行う場所: 教室(保育室) 保管場所: 保健室

低血糖対策

低血糖の時の主な症状

例) おなかがすいたり、いらいらと機嫌が悪くなったりする。

低血糖になりそうなきやなった時の対応

例) ゼリー状のブドウ糖を1袋飲ませる。

補食の種類・タイミングと保管場所

例) ビスケット 保管場所: 保健室

●その他特記事項

●緊急連絡先

— お困りのときは —



認定特定非営利活動法人
日本 IDDM ネットワーク

〒840-0854 佐賀県佐賀市八戸二丁目1番27-2号
TEL 0952-20-2062 FAX 050-3385-8940



info@japan-idm.net

https://japan-idm.net/

日本IDDMネットワーク



日本IDDMネットワークは、1型糖尿病をはじめとしたインスリン補充が欠かせない糖尿病患者を支援する認定NPO法人です。
発症初期の患者・家族に必要な情報を詰めた「希望のバッグ」の送付や相談対応など幅広く活動を行っています。

S1M 2504

学校、幼稚園、保育園、認定こども園の 先生のための 1型糖尿病対応マニュアル



先生方へのお願い

子どもは日々成長し、必要なサポートが変わるため、話し合うことが必要な場合もあります。
このパンフレットを参考に、患児や保護者、主治医とよく話し合って対応いただければ幸いです。

制作：日本IDDMネットワーク 監修：堀田優子 (PL病院小児科 医長)、川村智行 (あべのメディカルクリニック 院長)

■ 1型糖尿病はインスリン補充が毎日欠かせない病気です

- ・注射(1日4～5回)やインスリンポンプを用いた**インスリン補充が1日たりとも欠かせません。**
- ・原因不明で突然発症します。国内での年間発症率は人口10万人当たり1.5～2.5人です。
- ・糖尿病で多いのは2型糖尿病ですが、1型糖尿病と2型糖尿病は異なる病気です。

	発症年齢	メカニズム	治療方法
1型糖尿病	子どもに多い	インスリンが出なくなる	注射やポンプによるインスリン補充
2型糖尿病	大人に多い	インスリンが効きにくくなる	食事・運動療法が基本 内服やインスリン補充をする人もいる

●適切な治療を行わないと心臓、腎臓、眼、神経等に合併症を発症します。

■ 治療の基本はインスリン補充と血糖測定

- ・インスリン補充…注射やインスリンポンプを用います。
- ・血糖測定…インスリン量の調整や血糖値の確認のため微量の血液で測定をします。
- ほとんどの子どもはインスリン補充・血糖測定を教室や保健室で行っています。安全に短時間で行うことができるので、一般的には教室で行うことが勧められますが、どこで行うかは患児・保護者と話し合ってください。
- スマートフォンなどで血糖変動を見る子どももいます。



自己注射



インスリンポンプ



血糖測定



スマートフォンを用いることもあります

■ 適切に治療を行っていれば、他の子と同じように日常生活を送ることができます

- ・基本的に**食事や運動の制限はありません。**
- ・すべての授業や活動、行事、部活動に他の子と同じように参加できます。
- 運動量の増える行事の際は、事前に患児や保護者と話し合ってください。



Q. 患児が自分でインスリン補充できない場合は、保護者に学校や幼稚園・保育園・こども園に来てもらわなければなりませんか？

A. 保護者が毎日学校等に通うという状況は、本人の自立を促すためにできるだけ避けてください。インスリン補充方法の工夫などでそのような状況は避けられるので、保護者と主治医と相談してください。

■ 低血糖・高血糖の症状と対処

血糖値の変動には、食事量やインスリン量、運動量、気温、体調など、多くの要素が複雑に影響するので、治療をきちんとしている子どもでも低血糖や高血糖になることがあります。

低血糖かな?と思ったら早めの糖分補給が大切です

- ・低血糖(一般的には血糖値70mg/dL未満)の時は、ブドウ糖やジュースなどの糖分を含んだ補食をとらせてください。
- ・低血糖時の症状には以下のようなことがあります、個人差がありますので、裏面をご覧ください。
例) 眠気、体のだるさ、いらいら、冷や汗、動悸、空腹感、顔面蒼白など
- ・低血糖の症状があるけれど**低血糖かどうかわからないときや、すぐに血糖測定ができないときは、とりあえず補食をさせてください。**(高血糖よりも低血糖の方が急を要するため)



- 低血糖を放置すると意識障害やけいれんを起こすことがあり、これを重症低血糖といいます。
意識のないときは無理に補食をさせず、すぐに救急車を呼んでください。
あらかじめ保護者と主治医から依頼があった場合は、グルカゴン点鼻粉末剤(バクスマー)を投与してください。投与した場合もすぐに救急車を呼んでください。
- 軽い低血糖の時に補食をしていれば重症低血糖を予防できるので、**過度な心配は不要**です。



バクスマー

嘔吐や腹痛を伴う高血糖などの場合は保護者に連絡してください

- ・通常は低血糖のようにすぐに対応する必要はありません。
- ・高血糖になると、のどの渇きやトイレが近くなるなどの症状が出ます。
- インスリンポンプを利用している場合、チューブが抜けていたり、詰まっていたりするために高血糖になることもあるので、その際は保護者に連絡してください。
- 高血糖に嘔吐や腹痛を伴う場合も保護者に連絡してください。



■ 病気の公表については本人の意思も尊重してください

- ・低血糖や高血糖でつらいときに助けてくれるのは周囲の友達です。**周りの友達の理解や手助けはとても大切**になりますが、公表の有無は本人の意思も尊重してください。
- ・クラスの友達や仲の良い友達、部活動の仲間に説明するときの内容例。
例) 注射やポンプによるインスリン補充が欠かせないこと。
低血糖のときやその予防のためにお菓子やジュース等の補食が必要なこと。
- ・どのような説明をするかについては年齢の考慮も必要です。
例) 小学校低学年までは「〇〇さんはおなかかすきすぎると体がつらくなるから、甘いものをお薬として食べなくてはいけない」といった説明にとどめ、小学校高学年以上では1型糖尿病と2型糖尿病の違いから説明したほうがよいでしょう。

